

2017年 米子労音 5月例会

中川英二郎&林正樹 (トロンボーン&ピアノ)

感想集



2017年5月18日(木) 米子市文化ホール

アンコール：チャール・ダッシュ(モンティ)
G線上のアリア (バッハ)

例会評価

- ・会員数：356名
- ・例会参加数：294名(参加率82.0%)
- ・サークル数：47サークル
- ・評価投票数：179名(投票率61.1%)
- ・評価点：95.5%

担当サークル

あゆみ、いずみ、エンジョイ、西村由、バイオリン、ピーボ、
ポンポンいがぐり、メモリー、山崎、YYフルート

トロンボーン、豊かな音色で自由自在。ピアノ、繊細で、これまた自由自在。ジャズ畑の演奏家は皆さん魔術師のようです。楽しそうなアンサンブルで、私を幸せにしてくれました。中でも「ソたち」のしゃれっ気に喝采。そして、アンコールの最後に「G線上のアリア」を選ぶなんて、心憎い！コンサートの「余韻」が深まりました。（林さんの、柔らかそうなブルーのお靴も印象的でした。）

久しぶりに生の粋のジャズを聴いた。演奏技術よし、しかも上品しかもトークが上手、育ちのよささえ感じた。スタッフ達のジャンルの広い演奏家選びには感心する。

2曲目「Heaven's Kitchie」を聴いた時、トロンボーンの色は、澄みきった青空のようでした。空に浮かんで漂いました。3曲目「Moanin' Bobby Timmons」はオシャレなBARでカクテルを飲んでる気分になっていました。「50音シリーズ」からの楽曲「ソたち」(~さしすせ「そたち(つてと~)は、なんとも愉快的なネーミング。メロディーの74、8%が「ソ」の音でできているそうですが、大変おもしろかったです。トロンボーン細かい音の動きは、むずかしいだろうな。とにかくすごかったです。体が踊りました。

こんなルパン3世は聴いたことありません。
とてもかっこよく、いつまでも聴いていたい演奏会でした。
匿名希望

色々な曲目でとっても楽しめました。
ピアノソロ ブルーグレーロード美し過ぎでした(涙)
匿名希望

トロンボーンは行進曲的に勢いのある楽器とイメージしていたのが、大変繊細でやさしくおどろきました。ピアノもお人柄を感じるようなとてもステキでした。ありがとうございました。

♪プレゼントは「しじみ」と「のどぐろ茶漬け」→



難曲！！「ソたち」、曲の面白さとトロンボーンの巧みな演奏に目と耳が釘づけになり、ピアノの軽やかな指さばきはジャズ特有の切れ味のなかにやさしさを感じていました。

先日音楽学者（クラシック）岡田暁生が新聞紙上で語っていました。

“ジャズには「偉大さ」を目指さぬ謙虚さと品格がある。”と・・・。

まさに中川英二郎と林正樹ライブはこの言葉そのものでした。

匿名希望

一言感想より

- ・瞳もって聴きたかったです。
- ・楽しかったです。トロンボーンっていいね！
- ・ブルグレーロード美しかった・・・(涙)
- ・トロンボーン、ピアノ共に素晴らしかったです。お二人それぞれのお人柄もすてき！！
- ・GOLDの細かく長さを渦巻くを彼の唇音走り抜けるや Atk 詠む
- ・後ろドアからの登場でびっくりしたヨ！
- ・たのしかったです。
- ・ソたち最高！
- ・おそるべし右肩腕！&クチビル！！
- ・ピアノがすごい！もちろんトロンボーンも！
- ・お髭のお顔が印象的だったわ。
- ・ルパン最高！
- ・最高でした。
- ・中川さんは音楽一家で育ち、トロンボーンテクニックがすごく、天才的。
- ・米子でこんな一流アーティストのすごい演奏が聴けるのは労音ならではだと思ふ。
- ・もっとたくさんの人、特に小・中・高生など若い人にこのような音楽を聴いてほしい。
- ・労音はいろいろな分野の音楽が聴けるのがいい。
- ・今回もすばらしかった。

労音の演奏会を聴くのは今回が初めてです。部活ではトロンボーンを吹いているのですが、ジャズはあまり馴染みのないジャンルだったので、最初は楽しめるか不安に思っていました。しかし、中川さんが客席の後ろから登場して演奏を始めたとき、そんな不安は吹き飛びました。あまりジャズを聴かない僕でも知った曲が多く、また、コナンやルパンといったアニメの曲、クラシックからはG線上のアリアと、飽きることなく楽しませていただきました。林さんのピアノも素敵で、終始笑顔で弾いていたのがとても印象に残っています。中でも林さん作曲の『ソたち』は、ほとんどがソの音の聴いていておもしろい曲だったので、他の五十音シリーズもぜひ聴いてみたいと思いました。あっという間の楽しい演奏会、これからはジャズを聴く機会も増えそうです。

(ジャズに関しては全く疎いのでとんちんかんなことを書いているかもしれませんが、
そうであれば笑ってください)

中川さんのトークの中に“演奏の前にまったく打ち合わせをしていない”とあり、またトライセンスの演奏の前には“この曲だけはほとんど楽譜になっている”というお話がありました。ということはお二人の演奏していた曲はほとんど楽譜になっていなくて即興演奏状態だったということでしょうか。こういうことはジャズの世界では当たり前？

中川さんの演奏は超人的でしたが、ピアノの林さんの演奏はそれ以上に超人的でした。トロンボーンには休んでいる時間がありましたが、ピアノは最初から最後まで弾きっぱなしでしたから。

突然話が変わりますが、先日まで中川右介著“ロマン派の音楽家たち(ちくま新書)”という本を読んでいます。ほぼ同時代に生まれたメンデルスゾーン、シューマン、ショパン、リストらの交友を描いています。この本によるとこの時代に音楽家が世に出る最良の方法は流行っているオペラの曲などをピアノで即興的に変奏することだったそうです。すると林さんが200年昔のヨーロッパに生まれていたら、リストに並ぶような有名音楽家になっていたかもしれないですね。

今回初めて中川さんと林さんの演奏を拝聴しました。トロンボーン吹きにとっては勉強できる時間となりました。冒頭の登場の仕方は驚きでしたが、中川さんの演奏を一番近くで聴けた瞬間だったので、もっと耳を澄ませて聞けば良かったと後悔しています。ですが、その後の演奏がまるで私の耳の近くで行なっているような迫力で、少し前の後悔が飛んでいきました。

全部知っている曲という訳ではありませんでしたが、一曲一曲楽しみながら拝聴させていただきました。機会がありましたら、また公演を聴きにお伺いしたいと思います。

